

## 第二部 リレー式ワークショップ (SDGsの話)

### ④SDGsの話

SDGsには、「安全・安心」「生活」「環境」に関係した17の目標があります。2030年までにみんなで解決していこうという世界の目標です。SDGsは、だれ一人取り残さないを目標にしています。2030年まであと9年。あなたは何歳になりますか？その時、どんな未来になっているのでしょうか。

SDGsの各目標はそれぞれつながっています。世界全体のことを考えながら、自分ができることを考え、行動していこう。

#### 学校図書館で学ぶ SDGs

最近、SDGsに関する本がたくさん出ています。まずは、知ることが大事です。本を読み終わったら、学んで知ったこと気づいたことに取り組んだり、クイズを作ったり、委員会活動など学校で実行してみてください。学んだことを形にして、自主学習してみるのも良いです。SDGsは大きな目標ですが、今日知ったことで少しずつ変わっていきます。みんなの思いがかなうよう願っています。※おすすめの本は、NPOのホームページに掲載

知ろう 気づこう 考えよう  
そして 実行しよう



### 参加者アンケートの結果について

参加者にフォーラムについてのアンケートを、画面からボタンをクリックして回答してもらいました。フォーラムの内容については、良かったとする人が82%、普通とする人が18%であり、良くなかったとする人は0%でした。また、フォーラムの時間の長さについては、長かったとする人が53%で、ちょうど良かったとする人が45%、短かったとする人が2%でした。ご意見は今後の開催に活かしていきます。ご協力ありがとうございました。

### 編集後記

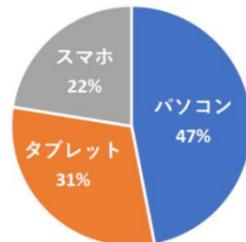
今年もコロナ禍により、昨年同様インターネットによる開催としました。参加者目標を150名(昨年104名)とし、8月から募集チラシを作成し9月末に市内小・中学校と参加高校の全生徒に配布するとともに、参加方法の動画も作成しました。その結果、目標を大きく上回る44校(昨年38校)から195名の参加をいただくことができました。なお、タブレットからの参加者が31%(昨年20%)と増加していました。

プログラムは第一部を活動発表、第二部を各講師によるリレー式ワークショップの二部構成としましたが、今年は活動発表に県立川口工業高校の掃除部と川口市立高校のボランティア部が加わり、バラエティに富んだ発表を聞くことができました。活動発表は事前に収録したビデオが中心でしたが、お忙しい中ご準備いただいた発表者の皆さんに感謝いたします。第二部は3か所からのリレー式ワークショップでしたが、ご多忙のなか資料のご準備、またリハーサルから本番までご協力いただきました講師の先生方に感謝いたします。

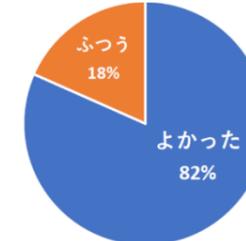
今年も「Zoom ウェビナー」を使用した中継でしたが、本番中は参加者から盛んにチャットが行き交い、児童生徒さんがここ一年でデジタルツールに慣れ親しんでいることに驚かされました。一方、運営側としては、各発表者の切替をスムーズに行えなかったこと、予定時間を大きくオーバーしたことなどの課題が見られました。今後に生かしていきたいと思っております。

最後に開催に際しご後援いただきました市教育委員会、ご協力いただきました戸塚南小学校の関係各位に感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### 参加者が使用した道具



#### フォーラムの内容の評価



#### ワークショップの配信の様子



# 子ども環境フォーラム2021

— オンライン開催報告書 —

2021年  
11月13日(土)実施



主催：認定NPO法人川口市環境会議  
(川口市地球温暖化防止活動推進センター指定団体)  
後援：川口市教育委員会  
協力：川口市立戸塚南小学校

### プログラム 〈敬称略〉

13:00	フォーラム開会あいさつ	浅羽理恵 武邊弘徳
13:05	1部 環境活動発表 ・戸塚南小学校・戸塚南小あすばるエコクラブ・安行小こどもエコクラブ ・川口自然っ子クラブ・県立川口工業高校掃除部 ・川口市立高校ボランティア部	
13:35	休憩 (センター紹介・体操)	浅羽理恵 佐々木礼子
13:40	2部 リレー式ワークショップ ① 大昔の生き物と大量絶滅の話 ② 生物多様性の話 一つのどんぐりから ③ 川口の自然の話	斎藤照夫 萩原利夫 西川昭三 牧野真知子
	④ SDGsの話	神山裕則 川口自然っ子クラブ 春川嘉孝 増田知佳
14:30	閉会あいさつ	斎藤照夫

この事業は公益財団法人サイサン環境保全基金より助成を受けて実施しました。





# 第一部 環境活動発表

**戸塚南小学校**  
3年生は校庭南側の斜面林を探検。見つけた生き物の中から興味を持ったものを詳しく調べ、季節による変化などを観察しています。オオイヌフグリやアメリカフウロなどの草花、アシナガバチなどの昆虫、ヤモリやカナヘビなどを調べました。探検の結果をみなさんに知らせて、斜面林の良さを知ってもらいます。また、3年生全員が市の「川口いきもの調査」の調査員に登録し、観察をしています。



**戸塚南 小 あすばるエコクラブ**  
絶滅危惧種のアカガエルの保護活動を行っています。戸塚南 小の隣の下台公園の斜面林の水路でアカガエルの産卵調査を行い、卵を戸塚南 小のピオトープの池に移して保護しています。アカガエルが産卵しやすい環境を整えるため、水路の手入れと井戸のまわりや竹林の手入れをPTAや学校の先生方と行いました。9年前に湧き水涸れの対策として、水路に井戸を掘り、周りに木を植えたことは「アカガエルと井戸ほり大作戦」の紙芝居となっています。



**安行小こどもエコクラブ**  
校庭でフレンドエコパークを開催し大盛況でした。受付で、エコキャップや牛乳パック、古紙を集めました。子どもたちが出店した約40のエコマーケットで、「くすのきチケット」を使って、ドングリごま、ドングリネックレスなど入手できます。弓矢の射的みせでは、「安行小の秋を食べよう」の活動で収穫した柿やミカン、ザクロの実を景品に使いました。集めた牛乳パックやエコキャップなどはリサイクルされ、トイレトーパーなどになって戻ってきます。



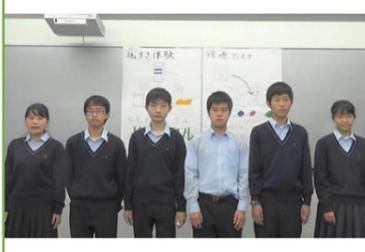
**川口自然っ子クラブ**  
「見沼自然の家」を中心に4つの活動をしています。「自然観察会」では見つけた植物や虫たちをカードにし、マイ図鑑を作っています。「生き物調査」では今年ミツバチについて調べ、一匹がいっ生で集める蜜の量がスプーン一杯ということを知りました。「たんぼの活動」では古代米を育て、収穫し餅つきをします。「世界の人々とつながろう」ではボルネオのジャングルがパーマヤシをつくるためどんどん少なくなり、絶滅する動物が増えており、土地を買い植物を植える活動のお手伝いをしています。



**県立川口工業高校掃除部**  
校舎のワックスがけやペンキ塗り、校外の道路脇の植え込みの清掃などの活動を実施。活動を通じて身の回りの環境にも目を向けるようになり、SDGsなどの勉強をしています。身近なところから活動を始めようと、海洋プラスチック問題の一つのペットボトルを削減するため、校内にウォーターサーバーを導入してマイボトルの使用を増やす活動をしています。「スポ GOMI 甲子園」での全国優勝でメディアに取り上げられ、環境問題の呼びかけもしています。



**川口市立高校ボランティア部**  
朝日環境センターで紙すき体験と環境フェスタのボランティア活動を行いました。リサイクルをすることで牛乳パックは、はがきやトイレトーパー、ティッシュなどに、ペットボトルは服やカーペットなどの身のまわりの品に生まれ変わりますし、リサイクルには環境に良いことがたくさんあります。また、川のごみ拾いや子どもたちに勉強を教えるなどの地域のボランティア活動、それに高齢者や障害者の方々と交流などを行っています。



子ども環境フォーラム2021は、11月13日(土)に、川口市地球温暖化防止活動推進センター、リサイクルプラザ、見沼自然の家をリモート方式でつないで実施しました。市内44の小中学校から195人のお友達が参加し、いろいろなことを学び、環境のためにできることを考えました。



# 第二部 リレー式ワークショップ

**休憩 ~地球温暖化防止活動推進センター紹介と体操~**  
朝日環境センター・リサイクルプラザ4階にある、川口市地球温暖化防止活動推進センターの紹介がありました。ここでは、展示やエコ体験・エコ工作などを通じて、地球温暖化について楽しく学ぶことができます。また、学校などで環境に詳しい講師の人が授業をする「環境講座」を行ったり、ホームページから動画や環境学習に関する情報などをお伝えしています。続いて、リサイクルプラザから中継でリフレッシュ体操をしました。



**①大昔の生きものと大量絶滅の話**  
かつて地球に君臨していた恐竜は、約6600万年前、小惑星の衝突で生態ピラミッドが崩れて、絶滅してしまいました。近年、人間の活動が原因で生態ピラミッドが崩れ、多くの生きものが絶滅していて、人間の将来も心配されています。国連が作成した動画で、恐竜が人間に「絶滅を選ばな！」と強く訴えたように、「自分から絶滅するなんて過去7000万年間で最も愚かなこと」です。自然と気候を守り、地球と生きものたちを救いましょう。



**②生物の多様性 ~ひとつのどんぐりから~**  
ひとつのどんぐりから芽が出て、葉がしげると、虫たちや鳥がやってきます。樹液はカブトムシなどのごちそうです。秋に実がなるとリスやクマがやってき、冬に葉が落ちるとミズなどのフンが腐葉土を作ります。倒れた木の幹はコケやキノコを育て、次世代の栄養となります。このように多くの生きものが食物連鎖でつながって生きている。この生きものつながりを「生物の多様性」といい、人間もその一部で生かされています。



**③川口の自然の話(見沼自然の家周辺より)**  
はじめに、西川先生が見沼の植物のお話です。大きなオニグルミの木の下から、落ちたばかりの実や動物が食べた後の実などを観察。ススキの根から養分をもらって生きるナンバンギセルのように、他の植物に寄生する植物もいくつか見られました。また、自分で種を飛ばしたり、風や動物にくっつき遠くへ運ばれ芽を出すことで命をつないでいる植物をいくつか観察。オオオナモミ・コセンダングサ・イノゴヅチはくっつき虫といって動物の毛などに種を着けて移動します。コガマは綿毛の先に種があり、風に乗って移動します。



続いて、牧野さんが「ようこそ森へ」の紙芝居を使って、森と川や海と雲、生きものつながりや、森は命の源、大人たちと一緒に森を守ることができるとお話しました。  
次に、見沼の生き物たちについて神山先生のお話です。今年は稲刈りあとの稲穂の中からカヤネズミの巣が8つも見つか、小さな赤ちゃんネズミが見られました。また、コオロギやカメシなどの虫たちや、モズ・キジ・オオタカ・ダイサギ・カワセミなどの鳥たちが豊かな自然の中で生きていることを紹介しました。  
最後に、自然っ子クラブの子供たちが、自然と生き物たちのつながりについて、紙コップに書いた生き物や植物を使って生態ピラミッドで説明し、豊かな自然がたくさん残る見沼たんぼを大切に残して行く決意を話してくれました。

